

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム 朋寿

日付 平成17年9月29日  
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験17年  
評価調査員 在宅介護経験12年  
評価調査員 福祉系大学教職員経験9年  
評価調査員 看護、訪問看護経験5年、福祉系  
短期大学教職員経験8年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

### 外部評価の結果

#### 調評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設備会社を営む代表者が社会貢献事業として、子が親を思う気持ちから、最初に始めた事業がこのグループホームである。ユニットの運営はそれぞれの主任にまかされていること、台所やテーブルの配置など設備の面や利用者の違いなどによって、それぞれのユニットは全く違った個性ある雰囲気を作っている。どのユニットも利用者や職員が手作りで飾り付けを楽しんでいる。A棟とB棟とを繋ぐ渡り廊下は畳やソファなどがある広い自由な空間で、利用者の心地良い居場所となっていたり、行事に使ったりしてとても良いと思った。

職員は利用者の性格や経歴を把握して、うまく役割分担を進めていたり、好きなことをさせてあげたりしている。職員のさりげない言葉かけを受けながら、楽しい会話で盛り上がるユニットや、大声を出す人に振り回されながらも皆で民謡を歌っているユニット、静かに好きな本を読ませてあげているユニットなど、その時々利用者のしたいことを出来るだけ引き出してあげようとしている。ホーム全体で希望者が毎日一緒に行く散歩は、気分転換や運動だけでなく、社会との接触や利用者同士の交流などにとっても役立っている。今後も出来るだけ多数の人が参加出来るようにして欲しい。

積極的に希望を出さない人にも寄り添って、本音を聞きだし、安心感や充実感を持たせてあげられるよう努力して欲しい。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

家族や地域の協力や理解を得る為に、『ホームの様子』を知らせる『たより』をホーム独自に作り、具体的な協力要望事項を表明する等の働きかけも必要なのではないでしょうか。また、町内会への入会等も考えて、連絡をとってみることも必要かもしれない。

個人の介護記録は記入し易く見やすい様式となっていて誰にでも良く分かって良いが、身体面の変化を中心とした内容だけでなく、精神面の活動や変化にも目を向けて記録し、精神的ケアに役立てて欲しい。それには寄り添って話を聞き出す事も必要である。

全施設の会議やユニットごとの会議など話し合った問題やその結果を記録に残し、今後に役立てたい。また、職員の自由な意見やケア上の悩み等を記入できるノートも役立てたい。

#### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	利用者一人ひとりの個性を活かした対応をしようとして努力していることが伺える。退屈しないように次々と声かけて楽しい雰囲気を作るだけでなく、その人のかつての仕事や経験をたたえてあげたり、経験を活かした作業をさせてあげて自信を持たせてあげたりしている。自分を主張しない人にもその能力を活かせる場をさりげなく提供したり、個別にゆっくり話を聞いたりと利用者を落ち着いた気持ちにさせている。利用者一人ひとりの一番居心地の良い他人との距離に配慮して、その人が求めている関わり方を提供していきよう努力している。		
	レベルが低下してきた人や自己表現のできない人に対しても、同じようにゆっくり寄り添って話を聞き出し、その人の能力を引き出し、充実感や満足感をもたせてあげる努力を続けて欲しい。また、個人個人の心の動きや変化に気付く目を養い、その変化を記録に残し、身体ケアの記録とともに今後のケアの方向性を決めることに役立てて貰いたい。		

#### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	認知症の利用者に一人の人間として関わりを持ち、話や希望を聞きだしてあげ、出来るだけその意にそってあげ、家庭のように居心地の良い生活が出来るよう支援していこうとしている。大規模施設では出来ない一人ひとりに細やかなケアを心がけ、自分や自分の親が入っても良いと思えるホームを目指している。そのために、明るく楽しい雰囲気作りや、家族や地域の人との交流を図っていこうとしている。		

#### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	利用者や職員の作品を飾ることで温かみのある雰囲気を作り、渡り廊下やエレベーター前にソファや畳を置くことで、自由でつろげる空間を作り出している。建物全体の玄関は目が届かず鍵がかかっているが、渡り廊下などでユニット間の自由な交流ができること、中庭の利用などでユニット外への自由は達成できる。ウッドデッキの中庭も十分活用して、もっと外に出たい人や散歩に出ない人にも屋外の空気を楽しませてあげて欲しい。		

#### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

#### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	ユニットの運営に職員の意見を活かせる空気があり、利用者の喜ぶことを職員同士で話し合っていて進めている。問題となるのは、家族や地域との連携ではないでしょうか。ホームから家族や地域へいろいろ働きかけなど地道な活動を継続させて、理解を得ていくことも大切なことと思う。その上に、家族や地域にホームの様子を知らせたり、具体的な協力要請について情報発信をしていき、認知症やグループホームへの理解を深めて貰うよう取り組んで欲しい。		